

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8 tel & fax 043-461-7004

こんな市長がほしい！！

—前我孫子市長、福嶋さんの話を聴く—

都知事選の行方が注目される場所であるが、3期勤めて今回勇退された前我孫子市長の福嶋浩彦さんの講演を聞いた。我孫子市の行政改革についてわかりやすく丁寧に話された。以下その発言内容を簡単にまとめてみた。

市長は、自分が常に「権力者」であるという危険性を忘れず、その「権力」は市民から負託されたもので、この権力を市民のために正しく使う責任を負っている。そのためにいかなる人、団体とも特別の関係を作ってはならない。

日本の政治改革は、改革派の知事たちが突破口となって少しずつ実現しているが、議会が改革をリードするようにならなければ・・・。市議会に与党、野党は作らず、なれ合いや根回しをやめ、公開の場で徹底的に議論し、その過程を情報公開した。霞ヶ関には地方の政策を決められない。市町村が具体的な運営を決めていけば苦情は市に言える。行政権限を市民がコントロールできる場所にもって来るべきだ。地方分権は自治するシステム・力がなければ半分しか機能しない。だから行政運営には計画段階から市民が参画すべきである。我孫子市では縁故採用がほとんどだった職員採用委員会に民間人を加えたり、補助金の既得権を見直し、補助金公募の審査を市民による検討委員会が行っている。また各課の予算要求をホームページ上で公開し、パブリックコメントを求めた。各種委員の選任は学識、団体ともレポートによって選び、議会定数の決定にも市民の意見を反映させた。このように政策や予算などの聖域にも市民を直接参画させるべきだ。

自然保護では、古利根川名残の三日月湖周辺を開発業者の手から4億円で買い戻したのだが、内2億円は市債を発行したところ、10億円分の申し込みがあった。地元の環境保護のために市民が市債をコントロールしている。

我孫子市の財政バランスシートは負債も少ないが、財産（都市基盤、ハコ物）も少ない堅実型。人口13万人は市民自治を実践するには最適な規模、行政と市民の顔が見えている。合併して何をするか、合併しないで何をするかは、何をして改革するかにかかっている。

4月の市長選、こんな市長がほしいとつくづく思う。

(H)

☆☆☆

創刊9年、50号を迎えることが出来ました。読者の皆様からのお励ましに感謝いたします。4頁には読者との交流会で頂いたご意見を収録いたしました。今後ともよろしく、お願いいたします。

歳末の香港～～“黄金の豚年”を迎える

新年（旧暦・2月18日）を2週間後に控える香港は年末の活気にみなぎっていた。来る年は60年に1回の、金運を呼ぶ“黄金の豚年”とあって、宝石店の店先には何十万円もする小さな豚の置物がたくさん並んでいた。日本は亥年であるが、同じ十二支を使っている中国・韓国は豚年だそうだ。夫に誘われて3泊4日のツアーに参加したが、出発が夕方、帰国が午後2時過ぎという、実質2日間のツアーで自由時間が多かった。そのためか、30人弱の参加者のうち年配者は我々ともう一組の夫婦だけだった。若者の多いツアーは行動がすばやく、集合も解散もスムーズで気持ち良かった。

1日目は団体行動で、有名なビクトリアピークなど数箇所の観光と何軒もの免税店めぐりだった。昼間のビクトリアピークの眺めも悪くはないが、夜景を見なくてはと、夕方からのオプションツアーを急遽申し込んだ。香港は山地が多く、人口は香港島と九龍半島に集中している。人口密度は高く、住居の殆どは高層住宅で、「地震のない香港では30階建てなどは珍しくもない」と案内人のヤンさんが言っていた。鉛筆のように細長いもの、風水を考えて1部を切り取った不思議な形の高層ビル、てっぺんに切妻屋根を乗せたような可愛らしい形の超高層ビルなど昼間でも結構楽しめた。夜は華やかにライティングされたビルが夜空に映え、中には屋上に灯台のように光線を伸ばしながら回る仕掛けをしたものもあり、それが交差して宝石箱と称される夜景をよりショウアップしていた。ツアーのバスで突然お土産リストが配られ、これから行く免税店より安いから申し込んだ方が得だと言われた。ヤンさんは2003年に起きたサーズ(新型肺炎)事件で職を失い、1年間政府の金(生活保護)で暮らしたことや最近やっと安定した暮らしになったことをしんみり語り、会社への貢献度で立場が良くなるので買って欲しいと、あまりにもはっきり言うので、ついかなりのお土産を買ってしまった。ビクトリアピークの途中で立ち並ぶ14億円以上すると言われる豪華別荘にため息をつき、香港の豊かさに驚いたが、ここもかなりの格差社会であった。お土産もお買い得であったし、勝手に撮られた集合写真も良い記念となった。

2日目午前は油麻地の生鮮食料品街へ 地図を見ながら歩いていった。値札はすべて“元”と書かれていたので買い物を断念したが、後から香港ドルと同じと分かり、トマトと果物を食べ損ねてしまった。歳末というのでお正月らしい乾物や野菜、魚が所狭しと並べてあり、珍しいものばかりであった。午後は男人街、女人街、翡翠街などお祭りの夜店のような屋台街をはしごした。どこへ行っても満員で子供も多く、香港の出生率は1000人当たり7.6人で世界最低とされているが実感がない。ヤンさんによると誰も少子化を心配していないそうだ。香港女性はキャリア志向であるが、近頃は結婚相手を中国本土に求める香港男性が増えているし、本土からの移入人口が多く、低い出生率を補っているのだ。物価は安くなかったが、美術館・博物館などの入場料や交通費はとても安かった。ホテル隣の香港美術館の入場料は10香港ドル(165円くらい)で、1週間有効の7つの美術館・科学館等の共通入場券が30香港ドル。香港は夜景と買い物だけではなかったのだ。(K)

菅沼正子の映画招待席 22

オールザキングズメン

一人間の権力欲とは、どこまでおぞましいものなのか—

汚職は許さない、と立ち上がった人が、いつのまにか自分も汚職に手を染めたり、独裁に抵抗してクーデターで権力をもぎ取った人が、独裁者になっていたり……。こういう社会の構図は今に始まったことではない。この映画の原作は「言論のノーベル賞」といわれるピューリッツア賞を1946年に受賞した同名の小説。権力は腐敗すると、過去の歴史に学んでいるにもかかわらず、60年も前の原作がそっくりそのまま現代社会に通じているというむなしさ。いや、人間の権力に対する本質は、過去も未来も永遠にかかわらずのものなのだろう。

原作のモデルは当時のルイジアナ州知事ヒューイ・P・ロング。当時のルーズベルト大統領が「今、もっとも危険な人物は2人。1人はマッカーサー、もう1人はヒューイ・P・ロングだ」と言ったほどの人物。映画では名前をウィリー・スタークと変えている。

ウィリー（ショーン・ペン）はまだ一介の郡の出納官でしかない。だからこそ上層部たちの汚職の現場を目の当たりに目撃している。校舎建設の入札の不正、欠陥工事、あげくのはてに校舎崩壊の大惨事。もう黙っていられないウィリーは、街角に立って汚職の実態を激しく非難した。当然、役所はクビになったが、それでもウィリーは街角で汚職についての真実を訴え続けた。

そのウィリーの姿を追い続けているのが新聞記者のジャック（ジュード・ロウ）。あくまでも彼は新聞記者という公正な第三者の目で見つめ、映画は彼の目線で語っていく。

街角で演説するウィリーに州知事選出馬の話しが持ち上がる。その気になって立候補してみたものの、どうも様子がおかしい。対立候補の票を割るための当て馬にされたことがわかると、がぜんウィリーの意欲は燃え、ジャックの助言も得て選挙演説は自分の言葉で訴えかける。「僕はワイロになびく男じゃない。労働者の血と汗を食いものにしてる寄生虫を叩きつぶすのは君たち自身だ。おだてにはのるな」

このウィリーの演説に手をやすめて聴き入る群衆。ショーン・ペンのカリスマ演技。群衆のエネルギーを焼き付ける映像の迫力。こうしてウィリーはみごと当選。ジャックが参謀になり、民衆の期待を一身に背負って、栄光の座についたが……。いつのまにか彼も黒い政治家であり、破滅の一途を転がり落ちていく。

まるで宮崎県を描いているような錯覚になるが、そのまま東が東国原英夫という県知事の顔になってきただけに、彼には決してルイジアナ州知事の二の舞は踏んでほしくない。（4月7日より公開予定）

編集後記 3月14日の朝日新聞、見開き2頁の山万の広告「千葉佐倉・ユウカリが丘での子育て街づくり」、
「夢と子どもを地域ぐるみで育てる街」の文字が目に入る。高齢者や子ども産業にシフトする開発業者。
行政のアテにならない少子化対策。新しい造成地の傾斜9度を越える跨線橋、通学路の交通問題、モノレール沿いの高い盛り土など、宮ノ台に限っても不安が多い開発の現実。「地域ぐるみ」「三位一体」「市民協働」などの言葉はおどるが、ほんとうに市民が暮らしよくなるのかなあ。（M）

50号記念！読者とのおしゃべり会

～これからの「すてきなあなたへ」、たくさんの意見をありがとう～

井野中の桜が、もう三分咲きにもなった3月8日、宮ノ台1丁目の喫茶室「諸古羅（しょくら）亭」にて、『すてきなあなたへ』に感想など寄せてくださった読者、配布などにご協力いただいている方々との交流会を開催した。総勢14人、女性9人だった。お住まいは宮ノ台、ユーカリが丘、中志津、臼井、稲荷台、白銀にわたった。お店のオーナー手作りのチョコレートケーキにコーヒーを楽しみながら、にぎやかなおしゃべり会となった。

本誌の創刊は1998年1月、地域の情報とオピニオンの発信を目指して宮ノ台女性井戸端会議の4人で立ち上げた。1999年度には佐倉市の「夢のまちづくり”さぽーと事業」として補助金の交付を受けたが、以降は、スタッフ4人と有志の方のカンパで乗り切ってきた。2002年、30号よりNHKラジオ深夜便でもおなじみだった菅沼正子さんの「映画招待席」を新設、現在は3人のスタッフが編集・印刷、配布は協力者の方々と分担。今後はネット上の発信も目指している。

創刊当時のスタッフで、その後、引っ越されたIさんも顔をみせた。参加者は自己紹介を兼ねて、本誌とのかかわりや感想を一言。後は、談論風発、地域のミニコミ誌や市民運動のあり方、市政・国政批判も飛び出した。本誌へのご意見や感想は、今後の編集や配布に活かしたい。

- ☆ 宮ノ台に住む、引きこもりがちな主婦にとっては、『すてきなあなたへ』（以下、「ステアナ」と略す）は、街の情報を知る手たてとして役立っている。
- ☆ 4年前から、佐倉市の市政を監視しようとして発足したグループに参加、ミニコミ誌も刊行しているが、ステアナの記事は調査や専門的知識が行き届いていて、たのもしい。
- ☆ 地域の身近な話題や問題が分かりやすく、読みやすい文章で書かれているのが魅力。映画館に足を運ぶことは少ないが「映画招待席」は楽しみだ。戸別配布にも協力している。
- ☆ 10年前に宮ノ台に引っ越してきたとき、地域の情報に飢えていたので、毎号が楽しみになった。以前の居住地でミニコミ誌を出していた経験から、カンパしたこともある。
- ☆ 知人からときどきステアナを見せてもらっていたが、批判精神に溢れている、数少ないミニコミ誌の一つだと思った。
- ☆ 志津霊園問題から市政に関心を持つようになったが、ステアナが継続的に取り上げている井野東・南における区画整理組合による開発問題は、寺崎の開発、酒々井のショッピングモール開発などと共通する問題をかかえていることがわかった。
- ☆ 佐倉市が人口3万人の時代から住み始めて43年、市民運動にもかかわってきたが、どうしても局地的になりやすい。ステアナもいろいろな組織と連帯していく方向性が必要ではないか。
- ☆ いま、自治会が行政の下請けになり、むかしの隣組状態になるのがおそろしい。ステアナが取組んでいる問題も地域を越えた横の連携が必要ではないか。
- ☆ 佐倉に住んで24年、生協活動を通して福祉に関心を持つようになり、民生委員にもなったが、福祉行政の頼りなさが身に沁みている。ステアナも福祉の問題に率先して取組んでほしい。
- ☆ これまでサークルやボランティア活動に参加してきたが、自分とぴったりするグループが見つからないまま過ごしている。そんな経験でもそのうち寄稿できればと思っている。
- ☆ ステアナは、戸別配布が主だと聞いているが、駅頭などで配布するつもりはないのか。手渡しは、読者の反応が直接伝わってくるのではないか。配置の施設も拡大した方がいい。(M)